

神宮大麻のおまつり



各種大麻。何れの大麻も厳格丁寧なお祭りを重ねて奉製され、頒布・授与されます。

明治の新たな国づくりとともに
新たな神宮の大麻が誕生しました。
四号に亘る神宮大麻特集の結びに
神宮大麻が奉製され
神棚に奉斎されるまでの
お祭りをご紹介します。

神宮では神札を「大麻」と称し、「タイマ」と通称しますが正式には「オオヌサ」と読みます。神社の神札は神社で祈禱を行い御祭神の神威を宿すなどして氏子・崇敬者に授与するものですが、神宮の大麻も丁寧なお祭りを重ねて奉製します。

オオヌサ

神宮の神札を「オオヌサ」と称しますが、「オオヌサ」とは本来「大幣」の字を当てます。「幣」とは神への供物を意味し、「幣帛」「御幣」などが神社で見られます。神宮では麻をヌサとすることが多かったことから「オオヌサ」を「大麻」と書くようになったようです。

一般に幣を神に奉るに際して直接に触れたり地や床に置くのは恐れ多いとして、幣を串に挟み神前に立ててお供えすることがなされます。その串を幣串と称します。幣串で立てられる幣は紙垂の形にされるが多く、金色の大きな紙垂型の幣が拜殿に立てられ御祈禱に用いられることもあります。お祓いのために振られる、紙垂の束を付けた物もたいいてい



【大麻用材伐始祭】上／大麻の幣串等を奉製する木材の伐採安全を祈ります。下／奉製に適した木材を調達する遙かな山々に向かい工匠が斧を入れる所作を行います。



【大麻曆奉製始祭】年頭に奉仕され、明治5年の神宮御璽奉行式を髣髴させます。



【大麻修祓式】大麻を神饌とともに神前に供え、神威の付与を祈って祓いを修します。

は祓戸の大神への幣として同じ意味合いを持つと考えられます。

神宮の神札である大麻も串に幣を付けた物で、それが見えるようにして紙で包んだもの（劍祓）、板紙に挟み込んだもの（頒布大麻・角祓等）、数本を箱に納めたもの（神楽大麻）などがあります。

そのまま串に付けられた幣が見える大麻と見えない大麻があり、また幣・串の形状もそれぞれ異なりますが、神宮のほとんどの大麻には幣がその中心に納められています。

大麻用材伐始祭

この神宮の大麻の幣串となるのは木材です。各種大麻の中に納めるために薄く、あるいは細く削らねばなりませんので、その加工に適した木が選ばれます。

その木材の調達を神に祈るお祭りが、毎年四月中旬、内宮宇治橋の南西にある丸山祭場で行われます。小高い山の上から遙かな山々に向かって斧を入れる所作を行い、大麻用の木材が無事に調達できるように祈ります。

御料紙の修祓式

大麻の材料としては何種類もの紙が必要になります。まずは幣とする紙、その幣を付けた幣串を包んだり挟んだりする紙、大麻に神威を宿す宮の宮号（「天照皇大神宮」など）を記し御璽印という朱印（「皇大神宮御璽」など）を捺す紙、

完成した大麻を上包みする紙。様々な材質の和紙が用いられます。

神聖な神札の材料とする紙ですから、清らかな中で調製されねばなりません。そこで、これらの紙を調製する工場へは毎年神宮の神職が向いてお祓いを行って、清らかな紙を調製して頂いています。

大麻曆奉製始祭

このように神事を重ねて調達した紙や木で大麻が奉製されますが、奉製を始めるお祭りが毎年一月上旬、大麻を奉製する神宮司庁頒布部の祭場で行われます。大宮司以下神宮職員が参列し、禰宜以下の神職と大麻奉製員によって奉仕される大麻曆奉製始祭です。

「天照皇大神宮」の宮号が浄書された銘紙に「皇大神宮御璽」の朱印が捺され、その年の神宮大麻の奉製始とするお祭りですが、その光景は明治5年の皇大神宮御垣内で斎行された神宮御璽奉行式を連想させるものがあります。奉仕者・参列者ともに神宮大麻の全国頒布を思召された明治天皇の大御心を年の初めに仰ぎ、神宮大麻の奉製が始められます。なお、年末には大麻曆奉製終了祭が行われます。

大麻修祓式

神宮司庁頒布部の大麻奉製員によって日々奉製される神宮の各種の大麻は、一定数奉製毎に、そこに神威の付与を祈り祓い清めるお祭りが行われます。頒布部



【大麻修祓式】毎日奉製される大麻が一定数に及ぶと大麻修祓式を奉仕します。

祭場に神饌と共に代表となる大麻（オオヌサ）をお供えし、祝詞と大祓詞を奏した後、お供えした大麻と、奉製され保管されている大麻を祓い清めます。これによって、丁重な祈りを受けた大御神の神威が厳格に清められた大麻に付与され、神聖な神宮の大麻が完成します。

大麻暦頒布始祭

九月十七日、奉製された神宮大麻がよいよ全国へ頒布されるべく、大麻暦頒布始祭が内宮神楽殿において行われます。神宮側は大官司以下による祭典奉仕、引き続き頒布を担う神社本庁の統理が大官司より神宮大麻を託され、次に神社本庁統理と総長から各都道府県神社庁長へと順に託されていきます。

この後、神宮大麻を託された各神社庁はその各都道府県においてこれを各神社へ託し、年末には各氏子区域で神宮大麻が頒布されることとなります。



【大麻暦頒布始祭】神宮における大麻暦頒布始祭の後、全国各地でも頒布始奉告祭が行われて神宮大麻が頒布されます。

発送についての修祓式

大麻暦頒布始祭で各神社庁長が託される受け取るのはその都道府県に頒布される神宮大麻の代表であり、全国への八百数十万体制にも及ぶ多くの神宮大麻は別途伊勢から全国へと発送されます。

神聖な神宮大麻を運ぶのですから、やはりこの運送に当たる事業者のもとへも神宮から神職が出向き、車両などのお祓いが行われます。

大麻暦頒布終了祭

三月五日、年末年始の神宮大麻頒布を終えたことを神前に奉告する大麻暦頒布終了祭が内宮神楽殿で行われます。

頒布始祭と同様に、神宮側は大官司以下が奉仕、神社本庁側は統理以下、全国の神社庁長が参列します。



神宮大麻は神宮と全国神社と日本人との紐帯となって、日本の心を未来へと繋ぎます。

大麻の奉斎

このように丁重に厳格に、お祭りを重ねて奉製され頒布される神宮大麻ですから、丁重で厳格な気持ちでお迎えしてお祭りしたいものです。

しかし、大切なのはその気持ちです。家屋の構造により神棚の形式は様々になるでしょう。生活の様式によりお祭りの方法も様々になるでしょう。全国に鎮座する神社でさえも、その社殿やお祭りは様々です。同じなのは真心で神様に向き合うという気持ちです。各ご家庭で、そのご家庭に馴染む形で末永く大麻、神札をお祭りすることが大切なのです。

日本人が守り伝える神祭りの文化、神道は、多様性や持続可能性をその本質とすればこそ千年も二千年も、そしてさらなる未来へも、力強く継承されるものなのです。